「理想と現実の乖離」に苦悩 ―PES創立の頃―

元SD設計室代表　井上　昭彦氏

PES創立50周年おめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。創立に関連した一人として当時の状況を知っていただき祝辞に代えたいと思い筆をとりました。

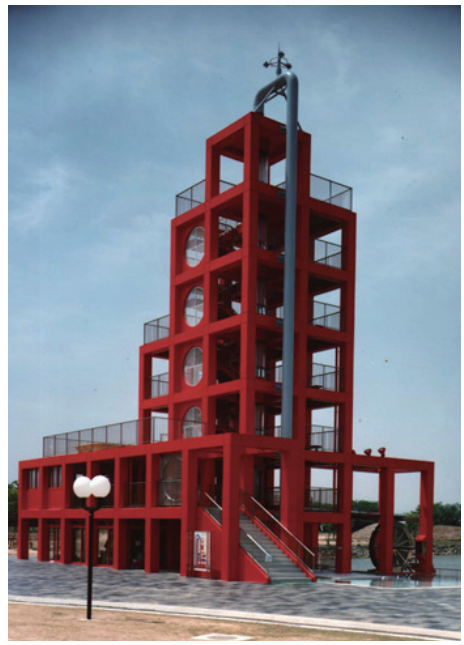
当時の私は大手設計事務所から独立し、個人として細々と設計の仕事をするというより、毛嫌いしていたパースが評価され、パース描きのあい間に設計をするという生活を送っていました。事務所時代、デザインと都市計画しか担当していない者にとって、一人になることは建築の他部門はすべて外註をしなければならないことを思い知らされました。幸いスタッフに恵まれていたため仕事は差しつかえなかったのですが、下請感覚から脱しきれず、各部野のエキスパートを集めた専門家集団を作り、より良い作品を世に問う事を夢見ていました。

そんな時アメリカ留学から帰国した同輩の石黒氏、服部研の後輩で構造の樫出君と集団のあり方を話す機会があり、各々仲間を連れて5人のメンバーで組織のあり方を1年間に亘り協議してきた。

夢と希望をのせて船出したPESであったが、呼びかけ人である私がたった2ヶ月で抜けた。要因は色々あったが、各部野独立採算制を前提としながら外向けには一つの団体であることを標榜するために「株式会社」の傘をかぶせたことである。エキスパート集団であることを自負していたはずが、蓋を開けてみると PESとして提出するには疑問のある作品によって同一視されることに耐えられなかった私の我儘で、皆さんに迷惑をかけたことを深く反省している。

今一つは経営や営業の苦手な私は№2を理想とし、デザインに集中したい願望もあり代表を石黒氏に依頼したため引きやすかったこともある。「理想と現実の乖離」は創立当初からあった事なのだ。私の我儘を通した事は申し訳なく思うものの石黒氏の我の強さ、ユニークな発想、グローバルの視野のおかげで50年という長期間続けてこられたのだと思う。

次の50年に向かって所員の皆さんの頑張りを期待しています。



春日井市水の塔（井上昭彦設計）